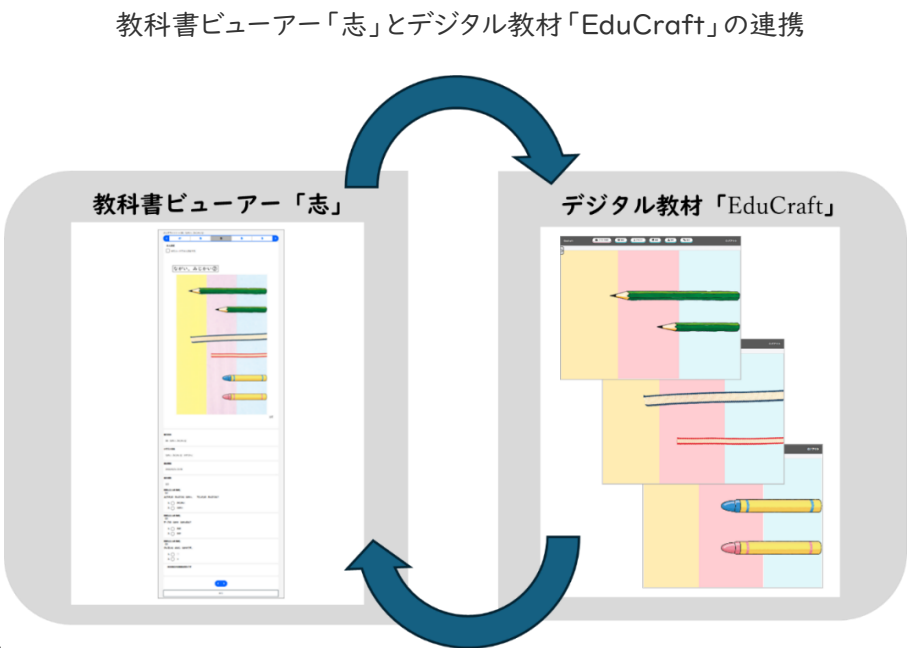


目的・目標	● 障害のある児童生徒の学習支援:ICTを活用し、障害による学習困難を克服するためのデジタル教材を開発・提供する。 ● 特別支援教育の質の向上:教員の教材作成負担を軽減し、効果的な授業実践を支援するツールを開発・提供する。	対象とする 知的障害者用 著作教科書	小学部算数(☆、☆☆(1)、 ☆☆(2)、☆☆☆) 中学部数学(☆☆☆☆、 ☆☆☆☆☆)
-------	---	--------------------------	---

取組概要

- 遠隔学習支援システム「志」と教材作成ツール「EduCraft」の開発・活用
愛媛大学が開発した「志」は、顔認証機能やアクセシビリティ機能を備えた遠隔学習支援システム。
「EduCraft」は、特別支援学校教員が容易に教材を作成できるWebアプリで、インタラクティブ機能が特徴。
これらのシステムを連携させ、知的障害者用著作教科書のデジタル教材を作成する。
- デジタル教材の開発状況と改善
算数・数学の教科書に対応したデジタル教材を作成し、「志」上で公開。
「EduCraft」の機能改善や操作性向上を図り、教材の質を高める。
教材の共有機能や教科書イラストの素材利用など、現場のニーズに応じた改良を実施。
- 産学連携と実践研究
複数大学・高等専門学校と現職教員が連携し、コンソーシアムを形成。
全国各地の特別支援学校で実践研究を行い、教材の有効性や課題を検証。
研究成果を教材改善に反映させ、全国への普及を目指す。



開発しているデジタル教材の概要

● デジタル教材開発の進捗

今年度事業において、LMS「志」上に、知的障害者用著作教科書の算数・数学のデジタル教材がほぼ完成した。算数教材はEduCraftでの作成に適し、数学教材は「志」上の小テスト機能が有効。

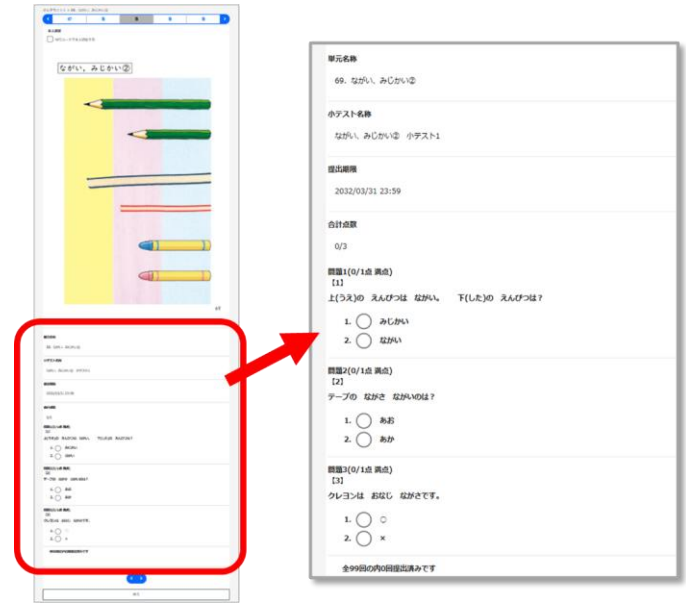
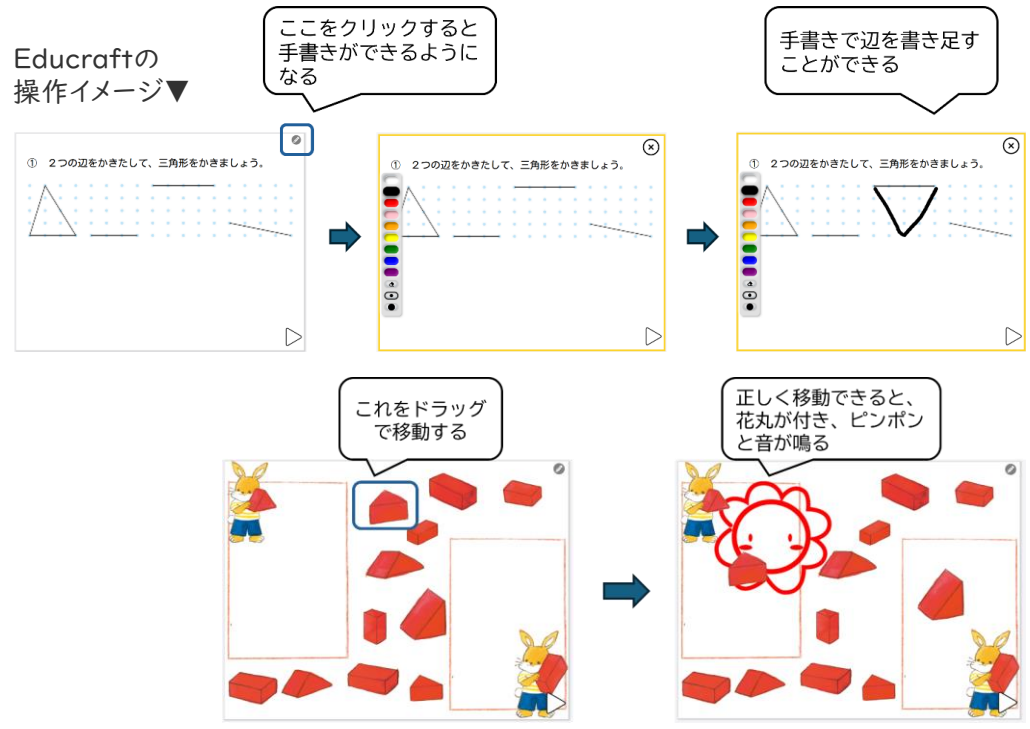
「志」上に作成したデジタル教材（開発の進捗率：100%）

EduCraftで作成したデジタル教材（開発の進捗率：算数99%、数学49%）

次年度は、教材の質的向上や「志」とEducraftのシステム連携強化等に取り組む。

教科書名	EduCraftによる教材作成が完了した率	EduCraftによる教材作成が完了した単元数	各教科の全単元数
さんすう☆	100%	31	31
さんすう☆☆1	100%	29	29
さんすう☆☆2	97%	28	29
さんすう☆☆☆	100%	48	48
数学☆☆☆	58%	18	31
数学☆☆☆☆	33%	6	18
さんすう（全体）	99%	136	137
数学（全体）	49%	24	49

2025.2月時点



▲「志」の閲覧イメージ:教科書の下部には該当ページに対応した小テスト問題を作成し、回答できるようにした。

本事業 の成果	● デジタル教材の開発と公開 LMS「志」とEduCraftを活用し、知的障害者用著作教科書の算数・数学のデジタル教材を開発し、公開した。 これにより、障害のある児童生徒がICTを活用して学習できる環境が整備された。 ● 教材作成ツールの機能改善 EduCraftの機能改善や操作性向上を図り、教員の教材作成負担を軽減した。 現場のニーズに応じた機能（教科書イラスト素材、教材共有機能など）を追加し、教材の質を高めた。 ● 実践研究による教材評価 全国各地の特別支援学校で実践研究を行い、教材の有効性や課題を検証した。 アンケート調査結果から、EduCraftの操作性や独自機能が高く評価された。 ● 産学連携による教材開発 複数大学・高等専門学校と現職教員が連携し、専門的な知識や技術を共有した。 現場のニーズを反映した教材開発を行い、教材の有用性を高めた。
課題と 今後の 展望	● システム連携の強化 「志」とEduCraftのシステム連携を強化し、教材利用の利便性を高める必要がある。 「志」上の教科書ページからEduCraft教材への直接遷移など、シームレスな教材利用環境を構築する。 ● 教材の質的向上 未作成単元の教材作成や、既存教材の質的向上を図る必要がある。 現職教員や有識者と連携し、より効果的な教材になるよう修正を行う。 ● 操作習熟のための支援 EduCraftの操作習熟には一定の練習時間や相談体制が必要であることが分かった。 操作マニュアルの作成や研修会の実施など、教員への支援体制を整備する。 ● 教材の普及と活用促進 開発したデジタル教材を広く公開し、全国の特別支援教育現場での活用を促進する。 教材の利用状況やニーズを把握し、継続的な改善を図る。